

学校教育目標	「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」		
--------	-------------------------------	--	--

a ミッション	コミュニティ・スクールを基盤とした「向東の対話」を活かした深い学びの創造	a ビジョン	「学校と地域が協働し、子供の未来を拓く学校」	尾道市立向東小学校
---------	--------------------------------------	--------	------------------------	-----------

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学力の向上	主体的に学び続ける児童の育成	対話的な授業づくりによる学力の向上	(1) 授業改善 ①思考力、活用力の育成を目指した対話的な授業づくり ②課題や実態に応じた手立ての工夫 ③研究授業の実施	○対話に関する児童アンケート『授業では、「むかいひがし」を使って友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。』という項目で肯定的な評価の児童と教職員の割合の平均	90%	74.1%	84.20%	94%	B	【結果】目標には達していないが、肯定的に評価する児童の割合と教職員の割合の平均の達成値は向上してきている。対話をする際に役割分担を行ったことが良い影響を与えていると考えられる。  【課題】自分の考えを話すことができるのは増えてきているが、そこから自分の考えを深めたり広げたりするまでは十分には至っていない。グループ編成に配慮する必要がある。	8			役割分担をすることで、児童の対話に対する自己評価は上がってきている。今後、発達段階に応じて目標を設定していくことで、系統的に指導を積み上げていくことができるようにする。
			(2) 言葉の力の育成 ①書く力の育成 ②読む力の育成 ③話し言葉の育成 ④書く力の育成 ⑤日記、作文の指導 ⑥読む力の育成 ⑦意味調べ、音読の充実 ⑧読書活動の推進	単元末テストにおける平均正答率(%) 1年 国85 算85 2年 国85 算85 3年 国80 算80 4年 国80 算80 5年 国80 算80 6年 国80 算80	100%	全国平均以上	国語科 96.9% 算数科 92.6%	国語科 100.5% 算数科 104.4%	102%	A	【結果】国語科も算数科も、全国平均以上の正答率だった。対話に取り組んだことで、自分の考えを論理的に説明したり、図や言葉、式を使って説明したりする力がついてきていると考えられる。  【課題】国語科も算数科も、短時間で長文を読み、内容を正しく理解することに課題がある。	8		
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする児童の育成	共感的人間関係の中で健康な心と体を育てる	(1) 自己肯定感を感じる学校集団づくり ①仲間作りを意識した構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングの実施 ②児童の不安や悩みを早期発見する体制の充実 ③仲間との関わりを生み出す機会の確保	・児童アンケート「友達と関わって学習したり活動したりするのは楽しい」の項目で肯定的に答えた児童の割合	95%	95.4%	97.0%	102%	A	【結果】「友達と関わって学習・活動するのは楽しい」では、1.6%上昇した。また、12月に行ったアセスでは、友人サポートと向社会的スキルの値がわずかに上昇した。特に友人サポートの値は前回より6ポイント上昇していた。  【課題】構成的グループエンカウンターやスクールソーシャルスキル等の成果が少しずつ出てきている。児童間の相互評価や教員の肯定的評価を継続して取り組むことにより、自己肯定感や有用感をさらに高めていく。	8			・継続して教員間での認識も共有できてきた。・学校が安心・安全な場所であることが大切。児童同士のつながりを密にし、お互いにサポートできる関係づくりを行って欲しい。他已紹介して互いの良いところを紹介する様な取組みがあってもよい。・言いやすい、話を聞いてくれるという関係性は信頼感を育むので、地域にもどんどん広げてほしい。・年齢によって向社会的行動の相手に変化があるだろうから、縦割り班での掃除のみの関わりだけでなく、運動会や遊びの中での交流も期待する。・教師や保護者が内容を共有し声掛けをしたり、さまざまな人のかかわりをもつ経験の中で、自己肯定感や児童間の相互評価をたかめていくのではないかと考えている。・アセスの結果「特に友人サポート」の値が6ポイント改善された点があるが、逆にあまり改善が見られなかった項目や下がった項目があれば共有していただきたい。
			(2) 自律できる児童の育成 ①各学級における生活目標達成の手立てを共有 ②掃除や係活動の充実	・毎月の児童会目標の達成率	88%	83.2%	85.5%	97.0%	B	【結果】児童会目標の達成は、「挨拶をする」や「廊下は右側を歩く」など各学級で自己評価できる具体的な目標を設定したことで達成率は2.3%上昇した。  【課題】「みんなが意見を出し合い、より良い学校を作ろう」ことを目標にした。より良い学校作りはひとり一人の児童が参加しているという実感によって、自己有用感をさらに高めることをねらう。	8			児童・教職員が「より良い学校をみんなで作ろう」を基本として、校内の目標を児童会が設定する。具体的な行動目標を発達段階に応じて学年や学級で設定していく。評価指標を「友達や学校のために行動することができた」とし、学校の一員としての自覚と自己有用感を持たせたい。
			(3) 異学年での運動遊びが楽しいと思える機会の創出 ①体育委員会・児童会の運動遊びの企画・実施 ②教員主催の体力向上を意識させる運動遊び企画・実施 ③外遊び週間の設定 ④集団遊びができる器具の整備 ⑤校舎内外でもできる集団遊びの紹介 ⑥職員研修	○児童アンケート「他の学年の人や男女関係なく遊ぶのは楽しい」と答える児童の割合	85%	84.7%	87.4%	103%	A	【結果】「他の学年の人や男女関係なく遊ぶのは楽しい」と答える児童の割合は87.4%で、前回と比べ2.7ポイント上昇した。  【課題】気候変動の影響で、外で遊ぶことのできない日があった。その中で少しでも、体を動かして関わり合える工夫をすることが必要である。また、季節に応じて、関わり合える取組を教員及び児童からの企画を実施したい。	8			・高学年児童が楽しく遊べれば、児童の遊びの場が必要かもしれない。・高校へ進学した卒業生が、向東は男女関係なくいい関係を築いていると聞いたことがある。遊び、学びを通じて遊びつきを強くしていきたい。  【課題】気候変動の影響で、外で遊ぶことのできない日があった。その中で少しでも、体を動かして関わり合える工夫をすることが必要である。また、季節に応じて、関わり合える取組を教員及び児童からの企画を実施したい。
信頼される学校づくり	地域と共に育つ児童の育成	学校と地域の協働の向上	(1) 地域の特色を生かした授業や地域とつながる授業の実施 ①各学年が設定した学びの場(生活科・総合的な学習の時間等) ②地域へ出かけての学習 ③ゲストティーチャーを招聘しての授業	○児童アンケート「地域のために活動した」と答える児童の割合	85%	91%	96.2%	107%	A	【結果】「地域のことが好き」と答える児童の割合は、96%と8月末に比べて5ポイント高くなった。また、「地域のために活動した」と肯定的に答える児童の割合は、約7ポイント高くなった。  【成果】地域の方々との日々の交流の中で、地域の事が好きと答える児童が多くなっている。地域のために活動することに喜びを感じられるようになってきているのではないかと考えている。  【課題】「地域のために活動した」という項目において、月ごとにはばらつきがあるので、安定して活動したい児童が増えるように取り組む必要がある。	8			・地域の課題はなにか、行政と連携して、課題を発見して解決していく過程を総合的な学習の時間で行うことができれば、面白そうだと感じた。・地域の方々の声掛けで児童の行動を評価する声が届くことで児童自身の有用性を感じることができているのではないかと考えている。・校内・校外を問わず、自ら行動を起こせる子が増えて欲しい。・イベントや運動会などで地域の方々に入ってきたら、子どもだけでなく地域の方々にも繋がっているように感じる。・地域のために活動する具体的な項目があると、子どもはわかりやすいのかもしれない。・日頃の挨拶などをすることも地域の方々の交流につながっていることを思わせられたい。・公民館行事等の情報をコードなどを活用する方法を提案していただいたので、それを活用していただく事で地域の行事に参加しやすくなるのではないかと考えている。・子ども会の活動は児童が地域へ出ていく活動なので、今後の点でどう改善するか。または補充するのは、学校だけでなく我々地域の人間も真剣に考えないといけない課題である。・日常からの取り組みにより、地域とつながることを意識するという視点には大いに賛成。
			(2) 学校の取組に係る保護者・地域への発信 ①学校便り・HP ②CS便り ③学級懇談会・入学説明会等	○保護者アンケート「学校は、学校行事や授業で地域の人材を積極的に活用している」の項目で肯定的な評価の割合	80%	90.8%	93.9%	117%	A	【結果】199件の家庭から回答を頂いた。そう思う(121) ややそう思う(66) あまりそう思わない(12) そう思わない(3) 分からない(7) となった。保護者のコメント欄には、「子供達のためにありがとうございます。」といった感謝の気持ちが多く見られた。また、ボランティアの方にアンケートのコメントをお伝えしたところ、喜んで頂けた。  【課題】情報を連絡アプリで公開する際の情報セキュリティにおいて、二重チェックを行うなど体制をしっかりと整備する必要がある。	8			・ボランティアに参加された方へ感謝をお伝えするなど、双方向の関わりをしようとしていることが素晴らしい。定期的な学校情報の発信で学校の取組に関する理解は深まっている。・学校から提供された情報をもとに、家庭内での対話が活性化しているかも気になる。・手書きのアンケートより、コードでのアンケートの方が手軽に答えられていると思う。・ボランティアへのコメントはともありたい。・アンケートに回答されない保護者が多いことも事実であるので、コミュニティスクールの取組改善のためにも回答いただく必要性をアピールした方がよいように思える。・学校が子どもたちと地域の協力者の心のかげはしとなり、お互いの思いを伝え合う機会を創出していることで、児童や保護者からの感謝の気持ちもより強くなり、地域の方々が協力しようとするモチベーションにもつながっていると感じる。

【自己評価 評価】  
A : 100 ≦ (目標達成)  
B : 80 ≦ (ほぼ達成) < 100  
C : 60 ≦ (もう少し) < 80  
D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : わからない。